

平成 29 年度

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 5 月)

自己点検評価書

比治山大学



HIJIYAMA

目 次

【基準 1 使命・目的等】

使命・目的及び教育目的の設定.....	1
使命・目的及び教育目的の反映.....	2

【基準 2 学生】

学生の受入れ.....	3
学修支援.....	4
キャリア支援.....	5
学修環境の整備.....	6
学生の意見・要望への対応.....	7

【基準 3 教育課程】

単位認定、卒業認定、修了認定.....	8
教育課程及び教授方法.....	9
学修成果の点検・評価.....	15

【基準 4 教員・職員】

教学マネジメントの機能性.....	17
教員の配置・職能開発等.....	18
職員の研修.....	19
研究支援.....	20

【基準5 経営・管理と財務】

経営の規律と誠実性.....	21
理事会の機能	21
管理運営の円滑化と相互チェック.....	22
財務基盤と収支	23
会計	23

【基準6 内部質保証】

内部質保証の組織体制.....	24
内部質保証のための自己点検・評価.....	24
内部質保証の機能性.....	25

【独自基準】

比治山大学・比治山大学短期大学部中期計画（平成28年度から平成33年度） に基づく平成29年度事業計画進捗状況.....	26
---	----

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準1. 使命・目的等

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 1-1 使命・目的及び教育目的の設定	<視点> 1-1-③個性・特色の明示 (留意点) <input type="checkbox"/> 使命・目的及び教育目的に大学の個性・特色を反映し、明示しているか。	・「建学の精神」及び大学の教育目的を明文化し、学生が能動的に学ぶ「卓越した教育」の地域における高等教育拠点となることを明示している。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>比治山大学のミッション・ビジョン https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/20160829_vision_mission_DAIGAKU.pdf ・比治山大学部学則
	<視点> 1-1-④変化への対応 (留意点) <input type="checkbox"/> 社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。	・社会情勢に対応し、「ミッション」「ビジョン」を定義した。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>比治山大学のミッションとビジョン https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/20160829_vision_mission_DAIGAKU.pdf

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準1. 使命・目的等

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 1-2 使命・目的及び教育目的の反映	<p><視点> 1-2-③中長期的な計画への反映</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的を中長期的な計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神及び大学・学部教育目的に基づいて中長計画(平成28(2016)年度～平成33(2021)年度)を策定している。 ・中期計画は年度ごとに事業計画で示し、事業報告書で進捗状況をまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中期計画の平成29(2017)年度の実施段階で、すでに役割を果たした事業や、見直しの必要な戦略や事業も出てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中期計画(平成28(2016)年度～平成33(2021)年度)は平成30(3018)年度で中間期を迎えるので戦略や事業について見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中期計画(平成28年度から平成33年度) ・平成29年度事業計画 ・平成28年度事業報告
	<p><視点> 1-2-④三つのポリシーへの反映</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させているか。</p>	<p>【現代文化学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神と学部の教育目的を反映させ、平成29年4月1日から、新たな三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を示した。 ・社会臨床心理学科は平成30年度からの公認心理師養成に対応し、三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の見直しを行った。 ・社会状況の変化に伴い、平成31年度に向けディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを精緻化している。 <p>【大学院現代文化研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神と研究科の教育目的を反映させ、平成29年4月1日から、新たな三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を示した。 ・現代文化研究科臨床心理学専攻は平成30年度からの公認心理師養成に対応し、三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の見直しを行った。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧
	<p><視点> 1-2-④三つのポリシーへの反映</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させているか。</p>	<p>【健康栄養学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神と学部の教育目的を反映させ、三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を策定している。 ・学部の完成年度後の平成30年4月に向け、新たに三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を策定した。 ・社会状況の変化に伴い、平成31年度に向けディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを精緻化している。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準2. 学生

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 2-1 学生の受入れ	<p><視点> 2-1-②アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施とその検証</p> <p>(留意点) □アドミッション・ポリシーに沿って、入学選抜などを公正かつ適切な方法により、適切な体制のもとに運用しその検証を行っているか。</p>	<p>・アドミッション・ポリシーに沿った入学選抜方法として、推薦入試では、面接試験を実施し、学力試験を課す入学試験では、試験科目の内容を工夫し、アドミッション・オフィス(AO)入試では入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)の具現化を図り、受験生の適性を評価している。 ・入試委員会を中心に入学選抜を実施し、適切な体制のもとに運用している。学科とIR委員会で、入学者に対する追跡調査を行っている。</p>	<p>・アドミッション・ポリシーに沿った各入学試験の判定方法の実施が課題である。</p>	<p>・大学入学選抜改革に基づいた試験の見直しをおこなうため、入学選抜改善ワーキンググループを設置した。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018年度学生募集要項 ・入試委員会規程 ・入学選抜改革ワーキング要項</p>	
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【現代文化学部】 ・現代文化学部の平成30年度入学定員充足率118%、収容定員充足率103% ・言語文化学科の平成30年度入学定員充足率118%、収容定員充足率107% ・マスコミュニケーション学科の平成30年度入学定員充足率112%、収容定員充足率86% ・社会臨床心理学科の平成30年度入学定員充足率143%、収容定員充足率116% ・子ども発達教育学科の平成30年度入学定員充足率101%、収容定員充足率102% ・以上のとおり学部としては入学定員に沿った適切な学生受け入れ及び維持をおこなっているが、学科別ではマスコミュニケーション学科が在籍学生の適切な確保ができていない。</p> <p>【大学院現代文化研究科】 ・現代文化研究科の平成30年度入学定員充足率64%、収容定員充足率64% ・現代文化専攻の平成30年度入学定員充足率11%、収容定員充足率6% ・臨床心理学専攻の入学定員充足率160%、収容定員充足率170% ・以上のとおり、現代文化専攻の入学者の受け入れ及び在籍学生の適切な確保ができていない。</p>	<p>【現代文化学部】 ・平成30年度入学者は、全学科で入学定員を上回り、適切な学生受け入れをおこなっているが、今後もこれを維持していくことが課題である。</p> <p>【大学院現代文化研究科】 ・現代文化専攻の入学者が入学定員を充足していない。</p>	<p>【現代文化学部】 ・入学定員に沿って適切に入学定員を確保することにより、収容定員の充足も維持する。</p> <p>【現代文化研究科】 ・現代文化専攻については、学部学生に対する指導を見直すことにより、進学につなげていく。</p>	<p>・ホームページ>教育研究活動等の公開>情報の公開>公開する教育情報>入学者の推移 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf</p>	
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【健康栄養学部】 ・健康栄養学部管理栄養学科の平成30年度入学定員充足率83%、収容定員充足率98% ・以上のとおり、収容定員はほぼ適切な確保ができていないが、入学定員の確保ができていない。</p>	<p>【健康栄養学部】 ・県内の管理栄養士養成施設状況もあり、入学定員が充足しなかった。</p>	<p>【健康栄養学部】 ・特色づくりを行い、教育の充実をはかる。</p>	<p>・ホームページ>教育研究活動等の公開>情報の公開>公開する教育情報>入学者数(大学、大学院、短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準2. 学生

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-2 学修支援	<p><視点> 2-2-①教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と職員はそれぞれの専門性を活かして、学修支援体制の充実を図り、「学生情報システム(Hilway)」の運用方法など、各委員会及び合同研修会参加により、方針・計画・実施に関する情報を共有している。 ・全教員及び非常勤講師がオフィスアワーを設定し、「学生情報システム(Hilway)」や掲示により周知し、学修支援を行う体制を整備している。 ・全学組織としての「学習サポートセンター」や「教職指導センター」を設置し、教職志望・資格取得希望学生やそれ以外の学生に対しての指導を強化するなど、支援体制を充実させている。 ・個別授業での図書館職員による情報検索ガイダンス実施やラーニング・コモンズ、グループ学習室利用に関してのガイダンスの実施等、学生への学修支援体制を整えている。 <p>【大学院現代文化研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自習室のコンピュータの保守点検等の研究環境の整備を職員が行い、教員と協働で学修支援及び授業支援の充実を進めている。毎年、全大学院生を対象に「大学院アンケート」を実施し、学修及び授業支援の体制改善に反映させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに導入された「Hilspace」、「G Suite」など新しい支援方法の周知が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修会や複数のワーキングショップを開催、また教学委員会と連携してFaculty Developer養成研修などを通じて各学科に浸透させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修の手引き ・教学委員会規程 ・「Hilway」システム利用の手引き ・「学生情報システム(Hilway)」教員時間割(オフィスアワー) ・教職指導センター規程 ・学修サポートセンター規程 ・質的転換加速化本部会議議事録
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文化学部では、教員の教育活動を支援するため、平成29年度には、前期6科目13名、後期10科目16名のSA(スチューデント・アシスタント)を、また、前期1科目4名、後期1科目3名のTA(ティーチング・アシスタント)を活用している。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学大学院現代文化研究科ティーチング・アシスタント実施要項 ・比治山大学スチューデント・アシスタント実施要項
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康栄養学部は、SA(スチューデント・アシスタント)の活用は行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験を受ける4年次生の活用は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次生に内容を周知し積極的な募集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学スチューデント・アシスタント実施要項
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>中途退学者、休学者及び留年者への対応策を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休学・退学の諸原因を鑑みて、毎年5月に、大学1.2年生を対象にチューターが面談を行い、それを早期に発見し解決をはかっている。 ・留年者に対しチューターやゼミ担当が定期的な連絡を行っている。 ・学籍異動の事案については、教員と職員の間で綿密な情報交換を行いながら対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チューターやゼミ担当教員だけでは、心のケアが困難であるため、専門的な知見が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30(2018)年度からウェルネスセンターに専任の学生相談員を置くことになっているので、連携して学修支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧(平成29(2017)年度版) ・教務の基本事項(平成29(2017)年度版) ・平成26~28年度休退学一覧について(各学部教授会(5月開催)資料) ・「学生情報システム(Hilway)」Hilcheck ・1・2年次対象面談の通知

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準2. 学生

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 2-3 キャリア支援	<p><視点> 2-3-①教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。</p>	<p>・教育課程の共通教育科目に、キャリア形成科目を開講し、キャリアセンター長である教員が担当しキャリア支援をしている。 ・「キャリアセンター」では、就職・進学に対する相談・助言体制を整備している。 ・キャリア参加が就職先企業へ訪問を行った結果をまとめ、キャリアセンター運営委員会で活動報告を実施した。 ・インターンシップ、会社見学バスツアー、企業が運営しているボランティアへの参加支援を行った。 ・卒業式で卒業生進路調査票を回収し、現状を把握した。</p>	<p>・未内定者等の就職活動状況を把握できていないことが課題である。 ・キャリアセンター運営委員の先生方と情報を共有し、キャリアセンターから学生に個別に連絡を取っているが、積極的に就職活動に取り組めない学生への対応方法が課題である。</p>	<p>・相談体制(専任職員及び相談方法)を充実させ、学科のキャリア運営委員やチューターと連携を取り、学生の就職支援を継続する。 ・大学2年生全員にビジネスマナーを習得させるため、「キャリアデザイン」の授業内で、ビジネスマナー講座を実施する。 ・学内合同企業説明会を4月、5月、6月に実施する。 ・卒業生対象アンケート調査結果の内容を運営委員会で意見交換し、効果的な支援体制について検討する。 ・キャリアセンター運営委員会にて、各学科のキャリア支援の取組状況を報告し全学科で共有する。</p>	<p>・比治山大学キャリアセンター規程 ・平成29年度就職活動支援プログラム ・2017比治山大学キャリア支援講座 ・JOB HUNTING GUIDE2017-2018 ・2017シラバス ・インターンシップ学生一覧 ・2017ひろしまフラワーフェスティバル「ひろえば街が好きになる運動」学生ボランティア ・会社見学バスツアー BtoBを知るコース</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準2. 学生

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-5 学修環境の整備	<p><視点> 2-5-①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理</p> <p>(留意点) □教育目的の達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用しているか。 □施設・設備の安全性(耐震など)を確保しているか。</p>	<p>・教育目的の達成のため、大学設置基準に定める施設として、会議室、事務室、研究室、講義室、演習室、実験・実習室、図書館等を整備し、アリーナやグラウンド、テニスコートの施設も備えている。</p> <p>・施設・設備の安全性を確保するため、耐震基準を満たしていない建物(1、2、3、8号館)の耐震化について検討し、耐震補強・改修計画の策定を進め、H29.12月1号館の耐震化は完了した。</p> <p>・2、3、8号館の耐震計画について方向性が定まった。</p> <p>・施設の維持管理は、各法令に規定された点検・検査やトイレ・廊下・階段・講義室・実習室の清掃を行う等、教育環境の管理を行っている。</p>	なし	<p>・キャンパス内施設の最適化と3号館改築の準備工事として、平成30年度は、4号館及び1号館の改修工事、トレーニングルーム棟を新築する。</p> <p>・引き続きキャンパス全体の整備計画(新3号館の計画含む)の策定について検討する。</p>	<p>・牛田キャンパス施設整備マスタープラン</p> <p>・平成29年度学校基本調査用資料</p>
	<p><視点> 2-5-②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>(留意点) □適切な規模の図書館を有しており、かつ、十分な学術情報資料を確保しているか。開館時間を含め図書館を十分に利用できる環境を整備しているか。</p>	<p>・図書館は短期大学部との共用で、ラーニング・commons(愛称Me+Library)を有しており、授業にも利用されている。</p> <p>・所蔵冊数は、平成30(2018)年3月末現在、215,093冊、図書のほか、雑誌、電子ジャーナル、データベース、視聴覚資料、電子書籍等を導入しており、OPAC端末とインターネット端末からの所蔵検索機能を整備し学術情報資料を確保している。</p> <p>・情報の発信については、「広島県大学共同リポジトリ」(通称HARP)に参加しており、「比治山大学紀要」、「心理相談センター紀要」、「教職課程研究」の論文等をWeb上に公開している。</p> <p>・特別文庫として、資料数2,106点の「三島由紀夫文庫」を設置している。</p> <p>・平成29(2017)年度より、授業期の8時30分開館を開始し、開館時間は、授業期・試験期共、平日は、8時30分~19時、土曜日は、隔週(試験期は毎週)10時~16時である。</p>	<p>・学生ボランティアによる学習アドバイザーの継続が課題である。</p>	<p>・学習アドバイザーについては、引き続き、教員の理解と協力を受けながら実施方法を探る。</p>	<p>・図書館利用ガイドブック</p> <p>・図書館利用ガイドブックミニ</p> <p>・ホームページ>比治山大学図書館 http://www.hijiyama-u.ac.jp/library/index.html</p> <p>・広島県大学共同リポジトリ(通称HARP) http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/</p> <p>・平成29年度図書館利用統計</p>
	<p><視点> 2-5-②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>(留意点) □教育目的の達成のため、コンピュータなどのIT施設を適切に整備しているか。</p>	<p>・教育目的達成のためIT関係設備として、コンピュータ実習室、コンピュータ自習室、CALL教室2室及びCALL自習室に加え、図書館内に自習用端末を整備しデジタルメディア等図書館のリソースと連携して学習できる環境を実現した。以上各設備を、事業計画に従い適切に整備している。</p> <p>・H29年8月に実施したシステム更新に伴い、学生のファイルサーバ機能の一部をクラウド化し、より大きなストレージ容量を提供したほか、初めて学外からのアクセスを実現した。</p> <p>・「学生情報システム(Hi!way)」は学生のポータルシステムとして履修登録をはじめ、掲示情報や時間割の確認、授業資料の提示、課題の提示と提出等に利用されている。</p> <p>・LMS環境は上記システム更新に伴うGSuite教育版の導入により、教員の授業資料、小テスト、アンケート等の作成/配付、学生の課題提出や出欠確認などが学内だけでなく学外でも可能となり、多様な授業展開が可能になった。</p>	<p>・ネットワークスイッチの更新、Wifi環境の改善、校舎間を結ぶ光回線(部分的に敷設後20年程度経過している)や屋内LAN配線の更新がまだ実現できていないため、6号館、9号館以外では授業で利用できない場合があることが課題である。</p> <p>・サイボウズの利用拡充により、事務作業の効率化を図る。</p> <p>・本年も新システムの利用普及を図り、学内全体への定着を目指す。</p>	<p>・H30年度にネットワークスイッチとWifi環境の更新を行なう。</p> <p>・校舎間、屋内のネットワーク配線の更新は各校舎の整備や建て替え状況に合わせ実施するが、ネットワークスイッチの更新の際、学内回線の経年劣化などを測定依頼し、緊急性のある場所を把握しておく。</p> <p>・サイボウズのユーザ規模の拡大(100⇒150)、比較的簡素な申請業務の電子化等を実現する。</p> <p>・システム普及の新たな方法として、これまでの教室での説明会の他、H30年3月より教職員向けに申込制の少人数説明会を導入しており、これを次年度も継続して効率的な普及を図る。</p>	<p>・「Hi!way」システム利用の手引き</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準2. 学生

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 2-6 学生の意見・ 要望への対応	<p><視点> 2-6-①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映させているか。</p>	<p>・平成28年度から本格運用しているe-ポートフォリオシステム「Hi!step」「Hi!check」は、学生が「目標設定→振り返り→目標設定」という学修活動のPDCAサイクルを意識させながら、自身の意見を書き込めるようになっており、教員が各学生の意見・要望を把握できる仕組みになっている。</p> <p>・「AP学生モニターに対する聞き取り調査」の実施により、学生の立場から「比治山型アクティブ・ラーニング」「4×3の比治山力」「学修成果の可視化」に関する意見を集約し、APAL/可視化部会におけるFaculty Developer養成研修で報告を行っており、各学科に意見が伝わるシステムになっている。そのFDeの教員が各学科会議、学科FDで報告することにより授業改善へとつなげている。また質的転換加速化本部、運営戦略本部・各種委員会と連携して全学的に周知する仕組みも構築している。</p> <p>・学修及び授業支援に対する学生の意見等については、日常的にはチューターや学生支援室の職員を中心に汲み上げる体制が整備されている。</p>	<p>・e-ポートフォリオシステム「Hi!step」「Hi!check」への学生入力、教員のコメント入力が可能となり、学修支援に関する学生の意見・要望の把握ができるシステムは構築されたが、入力を促すような運用面の充実が課題である。</p>	<p>・e-ポートフォリオ機能「Hi!step」「Hi!check」の利用促進にあたっては、単に入力を働きかけるだけでなく、実際の活用例(比治山型ディプロマ・サプリメント)を具体的に示すことにより、学生・教員・職員が入力することの意義や効果をさらに積極的に見出せるようにする。</p>	<p>・AP学生モニターに対する聞き取り調査(AL推進室)</p> <p>・学生情報システム(Hi!way) オフィスアワー設定機能</p> <p>・質的転換加速化本部議事録</p>	
	<p><視点> 2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。</p>	<p>・アンケート・モニターなどでは特段の要望事項がなかった。</p> <p>・クラブ活性化支援金制度が始まり、「プラス部のオリジナル曲作曲」など4団体に計200万円を支給した。年度末には成果報告会を実施した。</p>	<p>・学生生活(学業・クラブ・アルバイトなど)がうまくいっていない学生の捕捉と対応が手薄である。</p> <p>・入学後の初期トラブル・不適應から大学に来にくくなっている学生への適切な対応ができていない。</p>	<p>・いわば「学生のセーフティネット」が必要になる可能性がある。学生委員会で行えること、全学で対応すべきこととして学生委員会から提案できることの二つに分けて、委員会で検討する。</p>	<p>・クラブ活性化支援金制度</p> <p>・新入生アンケート調査結果</p> <p>・卒業生アンケート調査結果</p> <p>・学生モニター制度議事録</p>	
	<p><視点> 2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。</p>	<p>・学生の心身の健康管理・健康相談に関する問題や保健師・学生相談員らが直接聴取した学生の意見については、ウエルネスセンター運営委員会や学生相談連絡会で検討し、改善に反映している。</p>	<p>・非常勤の学生相談員では学生のニーズに十分対応できず、また教職員との連携も十分に行えないという課題がある。</p>	<p>・平成30(2018)年度からウエルネスセンターに専任の学生相談員を置くことになっているので、教職員と連携し支援を行う。</p>	<p>・比治山大学ウエルネスセンター規程</p> <p>・比治山大学ウエルネスセンター平成29年度活動報告</p>	
	<p><視点> 2-6-③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、施設・設備の改善に反映しているか。</p>	<p>・トレーニング室の改善の要望を受けて、移転を検討したが、全学的な建物配置の中で、いったん凍結状態になっている。</p>	<p>・新設された射撃部をどこに置かかを確定し、そのうえで各クラブの練習場等を再配置するのが課題である。</p> <p>・学生のくつろげるスペースが不足していることが課題である。</p>	<p>・トレーニング室や練習場等の総合的な配置計画を策定する。</p> <p>・デットスペースに椅子やソファなどの設備を整備する予算が認められたのを受けて、新年度、6号館の川側スペースなどに順次配置する。</p>	<p>・新入生アンケート結果</p> <p>・教員研修資料(学生モニター会議)</p> <p>・卒業生対象アンケート結果</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-1 単位認定、 卒業認定、 修了認定	<p><視点> 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知</p> <p>(留意点) □教育目的を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか。</p>	<p>【現代文化学部・現代文化研究科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、大学のディプロマ・ポリシーを策定し、さらに学部・研究科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。</p> <p>【健康栄養学部】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、大学のディプロマ・ポリシーを策定し、さらに学部のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。 ・これまでの学部の三つの方針を見直し、完成年度後の平成30年4月から新たなディプロマ・ポリシーをホームページや学生便覧に掲載し周知する。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧</p> <p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>
	<p><視点> 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知</p> <p>(留意点) □教育目的を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか。</p>	<p>【言語文化学科日本語文化コース】 ・こころと一体化した言語の運用能力を養成するとともに、言語によって創造される文化への理解を深め、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成する学科の教育目的を反映させ、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧</p>
		<p>【言語文化学科国際コミュニケーションコース】 ・こころと一体化した言語の運用能力を養成するとともに、言語によって創造される文化への理解を深め、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成する学科の教育目的を反映させ、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧</p>
		<p>【マスコミュニケーション学科】 ・大学及び学部のディプロマ・ポリシー、そして、メディア・観光分野を中心に、社会に積極的に関わっていく人材を育てるという学科の教育目的を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページや学生便覧等で周知している。</p>	・より幅広い周知が必要である。	・学科紹介リーフレット等でのアピールする。	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧</p>
		<p>【社会臨床心理学科】 ・建学の精神、大学の教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、学科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧等で周知している。 ・平成30年度から公認心理師養成に対応するディプロマ・ポリシーを策定した。</p>	・公認心理師養成に対応する新しいディプロマ・ポリシーを策定した。	・新しいディプロマ・ポリシーが周知されているかを確認する。	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>
		<p>【子ども発達教育学科】 ・子どもの発達の多面的、総合的な教育研究を通して、子どもの豊かな人間の・社会的発達を支援・指導するための教育的実践力を養成し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成するという教育目的を踏まえ、学科のディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページや学生便覧に掲載して周知している。</p>	・策定したディプロマ・ポリシーは、高校生をはじめ広く社会に理解を得られるものであるかどうかを把握することが課題である。	・ディプロマ・ポリシーが理解を得られるものかどうかの検証が必要である。	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧</p>
<p>【管理栄養学科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョン、大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学部・学科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。 ・これまでの学部・学科の三つの方針を見直し、完成年度後の平成30年4月から新たなディプロマ・ポリシーをホームページや学生便覧に掲載し周知する。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>		

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学部) (留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。	【現代文化学部・現代文化研究科】 ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、学部のディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧
		【健康栄養学部】 ・平成28年度に平成30年度からの三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、学部・学科のディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧
	<視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学科) (留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。	【言語文化学科日本語文化コース】 ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、ディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧
		【言語文化学科国際コミュニケーションコース】 ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、ディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧
		【マスコミュニケーション学科】 ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、ディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧
		【社会臨床心理学科】 ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成30年度から公認心理師養成に対応するためディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行った。	・公認心理師養成に対応するために見直されたディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行った。	・公認心理師養成に対応するために見直されたディプロマ・ポリシーを含む三つの方針に一貫性があるかを確認する。	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧
		【子ども発達教育学科】 ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成した。 ・ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保するため、そのディプロマ・ポリシーに基づき、必要とする授業科目を開設し、組織的・体系的で効果的なカリキュラムを編成した。 ・平成31年度に向けて、ディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。	・新たな学習指導要領・幼稚園教育要領および保育指針の改定を受けて、より望ましい平成31年度に向けたカリキュラムの改革に着手しなければならない。	・学科内のワーキンググループを随時開催し、より良いカリキュラム改革を進めていく。	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧
		【管理栄養学科】 ・平成28年度に平成30年度からの三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成した。 ・ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーにより、管理栄養士・栄養教諭として必要な専門的知識・技能の修得を図る専門教育科目を1年次から順次的・系統的に開設している。 ・平成31年度に向けて、ディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。 (共通教育)</p> <p>□シラバスを適切に整備しているか。</p> <p>□教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。</p> <p>□履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。</p>	<p>・カリキュラム・ポリシーに沿って、全学共通の共通教育と学科ごとに実施する専門教育による教育課程を体系的に編成している。</p> <p>・共通教育は、「基礎的人間力」の育成を目標とし、「比治山ベーシック科目」と「教養科目」とでカリキュラムを編成している。</p> <p>・シラバスは、「教育目標との関連」「到達目標」「免許資格」「免許・資格の科目区分」の項目を設けて、各学科のカリキュラム・ポリシーに沿うような形で適切に整備している。</p> <p>・授業方法の改善を進めるために、平成29(2017)年度は、「4×3の比治山力 ルーブリック」というテーマで教職員合同研修会を実施、「アクティブ・ラーニングの効果検証」と題したAPセミナー、コア・アクティブ・ラーニング科目を中心とした授業参観の促進、Faculty Developerを中心としたレッススタディを行った。</p> <p>・e-learningシステム「Hi!space」(LMS)に加えて「G Suite」(LMS)を追加することにより、学生の授業時間外学修が促されるようなシステムを整備し、説明会やワークショップを実施した。</p> <p>・単位制度の実質化を担保するため、「比治山大学履修規程」に基づき各セメスターで履修登録できる単位数の上限を24単位とし、学生の主体的な学びを促し、学修時間を確保している(一部30単位を上限とする場合あり)。</p>	<p>・授業方法の改善を進めるため、教職員合同研修会での研修、教員同士による授業参観の促進、各学科のFDERを中心としたレッススタディを行ってきた。しかしながら授業参観、レッススタディの件数が少ない。</p> <p>・学生の授業時間外学修を促進させる方策の一環として、LMSの機能を充実させたが、その利用率は低い状態である。</p>	<p>・教学委員会やAPAL/可視化部会に配置しているFDERを通じて、授業参観やレッススタディ実施を促していく。</p> <p>・LMSのさらなる説明会やワークショップの開催で学内にLMSを普及させていく。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam</p> <p>・2017 学生便覧</p> <p>・シラバスフォーマット</p> <p>・比治山大学履修規程</p> <p>・平成29年度AP外部評価委員会資料</p>
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 (専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【言語文化学科日本語文化コース】</p> <p>・カリキュラム・ポリシーに即し、カリキュラムは「日本語学・日本文学・日本文化」「表現・創作」など、必要なスキルを身につけるための科目を配置し、教育課程を体系的に編成している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam</p> <p>・2017 学生便覧</p>
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 (専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【言語文化学科国際コミュニケーションコース】</p> <p>・国際コミュニケーションコースのカリキュラム・ポリシーに即し、全学共通の共通教育の比治山ベーシック科目のコミュニケーションリテラシーなどと共に、専門科目では「国際コミュニケーションスキル」や「国際言語文化」などを中心に体系的な教育科目を編成している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html</p> <p>・2017学生便覧</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 (専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【マスコミュニケーション学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア・観光分野に関する基礎知識を学ぶ「基礎」科目を設けている。 ・メディア・観光分野に関する表現力・取材力・企画力などを身に付ける「専門」科目を設けている ・「基礎」「専門」で身に付けた知識・スキルを実践力へと高める「発展応用」科目を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア分野と比較すると、観光分野の科目が少ない。 ・「観光プランナー」資格獲得のための観光ビジネス系の科目が足りない。 ・「専門」科目と「発展応用」科目の区分基準の再考する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来期より、観光ビジネス系科目を4科目新設予定である。 ・来期より、「発展応用」科目は基本的にはフィールドワーク・ワークショップを中心とする授業で構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam ・2017学生便覧 	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 (専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【社会臨床心理学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーに即し、「科学的理解」「心理実験・検査・調査」「報告書作成」「自己理解」「他者理解」「対人コミュニケーション」「支援・援助」という7つのスキルを身に付けるカリキュラムを編成している。 ・「基礎科目」では、「科学的理解」「心理実験・検査・調査」「報告書作成」のスキルを身に付けるカリキュラムを編成している。 ・「専門領域科目」では、「自己理解」「他者理解」のスキルを身に付けるカリキュラムを編成している。 ・「特論科目」では、「対人コミュニケーション」「支援・援助」のスキルを身に付けるカリキュラムを編成している。 ・「発展科目」では、7つのスキルすべてを向上させるカリキュラムを編成している。 ・平成30年度から公認心理師養成に対応するためカリキュラム・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行い、新たなポリシーに即した体系的なカリキュラムを編成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師養成に対応するために見直されたディプロマ・ポリシーを含む三つの方針に沿ったカリキュラムを策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師養成に対応するために見直されたディプロマ・ポリシーを含む三つの方針に沿ったカリキュラムが実施されているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧 	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 (専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【子ども発達教育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども発達教育学科では、ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシーに沿って、組織的・体系的で効果的なカリキュラムを編成した。 ・子どもたちの成長・学びを、深い愛情をもって支援する人材となることをめざした組織的・体系的・実践的な専門教育カリキュラムを編成した。 ・専門教育カリキュラムを構成する科目は、「基本科目」「教育学・心理学系科目」「幼児教育・保育系科目」「教科内容系科目」「教育方法系科目」「教育・保育実践系科目」、および「専門関連科目」の7領域に分けて編成した。 ・学生がめざす進路に応じて専門的学修と実習を重ねることができ、関連免許・資格の取得とともに、卒業研究を深め卒業論文が完成できるようにカリキュラムを編成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく改訂された学習指導要領・幼稚園教育要領・保育指針と子ども発達教育学科が策定しているカリキュラムポリシーとの整合性を図りつつより良いカリキュラムを構築することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科内のワーキンググループを随時開催し、カリキュラムの改革を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧 	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 (専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【管理栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーに即し、カリキュラムは全学共通の共通教育と学科ごとに実施する専門教育によって、教育課程を体系的に編成している。 ・シラバスは、各科目の授業概要に基づき、適切に整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーに即した教育課程を編成するため、開講セメスタや配当年次、科目の見直しが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科にカリキュラム検討ワーキングを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam ・2017 学生便覧 ・シラバスフォーマット 	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<視点> 3-2-④教養教育の実施 (留意点) <input type="checkbox"/> 教養教育を適切に実施しているか。	・教学委員会の下に「比治山ベーシック科目」に含まれる「スタートアップ」「キャリア形成」「日本語」「外国語」「情報」についてそれぞれ専門委員会を置き、専門的事項を審議し、各専門委員長を通して、幹事会や教学委員会へ反映させている。 ・教養教育に関しては、教学委員長、教学副委員長(2人)及び学生支援室長の4人での打ち合わせ会で検討し教学委員会に諮っている。	・社会を取り巻く環境の変化に即した教養教育の見直しは課題である。 ・教養教育の専門委員会等の設置について検討しているが、まだ設置にいたっていない。	・教養教育を俯瞰できる「共通基盤教育」の組織化を含めた教育体制を見直す。	・2017 学生便覧	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等	
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【言語文化学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語文化学科では、2年次に「日本語文化コース」「国際コミュニケーションコース」への分属を行うため、1年次では学科共通の導入教育を重視している。 ・コース選択への導入として、各コースの教員がオムニバス方式で専門分野の紹介を兼ねた講義を展開し、コース選択の参考となるよう工夫している。 ・2年次には両コースで必修科目「基礎ゼミナール」を置いて、少人数編成の演習形式により、各コースでの専門分野への導入をきめ細かく指導している。 <p>【言語文化学科日本語文化コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語文化コースは、日本語表現関係科目における少人数クラス編成、創作関係科目における小説・詩・短歌・俳句等の個別指導、特に、「日本語文化研修」の学外実地授業における文化体験フィールドワーク及びそのレポート作成に基づいた日本語文化の総合的かつ融合的な理解など、体験的な授業にも力を入れている。また、その他の授業においても、コース全体でALの手法を用いた授業を推進している。 <p>【言語文化学科国際コミュニケーションコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際コミュニケーションコースは共通教育の英語科目も含めて1学年にそれぞれ2科目の英語コアカリキュラムを実施し、相互にテキストや授業内容を連携させ教育効果を高めている。 ・コース分属前の1年次でも、国際コミュニケーションコース希望学生に対しては英語コアカリキュラムの履修指導をしている。 ・英語授業は習熟度別に少人数(20名以下)のクラス編成である。英語リテラシーや英語基礎の科目では、コンピュータを用いた自習が可能なe-learningを全員に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語文化コースは、専任教員のいない「表現・創作」関係科目を中心に、「4×3の比治山力」育成という全学的教育目標及び3つのポリシーに照らした場合の、細部の整合性について引き続き検討する必要がある。授業方法の工夫や開発については、アクティブ・ラーニングの多様性をふまえて、授業の内容に応じたあり方を検討し、実施している。 ・日本語文化コースは、「表現・創作」関係科目への新たな専任教員配置の検討及びシラバス作成時における主任とコース教学委員による整合性の細部のチェックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1:第20回日本語文化研“大和研修実施要項(学生支援室提出)”及び“しおり”“資料集”2:日本語文化コースHPブログ(2017年5月23日/7月17日/7月25日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2017学生便覧 	
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【マスコミュニケーション学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自らが「動き、考え、発信する」力を育てるために、グループワーク・フィールドワーク等を中心とした授業を積極的に展開している。(高速道路サービスエリア調査・地域イベントでの取材など) ・行政や企業とのコラボレーションにも授業等で積極的に取り組んでいる。(バスツアー開発・観光プランづくり・協力企業の入社案内作成など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や地域とのコラボレーション活動のレベルアップが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアと観光分野が一体となって、総合的な企画・提案が社会に対してできるような体制づくりを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・2017マスコミュニケーション学科リーフレット
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【社会臨床心理学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会臨床心理学科では、「心理実験演習」や「心理査定演習」において大学院生のTA(Teaching Assistant)を活用し、先輩との接触を通して、心理専門職への意欲を喚起すると同時に、同級生との新しい人間関係を実現する経験をさせている。 ・「社会臨床心理学」「社会臨床心理学演習」では、社会で活躍している卒業生を講師として招き、将来の進路を考える場を積極的に提供している。また、卒業論文発表会をパネル形式で行い、よりアクティブな学びを促進できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から、公認心理師に対応したカリキュラムに変更されるため、新カリキュラムに沿った教育を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいカリキュラムにおいて、よりアクティブな学びが行えるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・2017学生便覧

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【子ども発達教育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども発達教育学科では、①カリキュラムにおける現状との不一致やセメスター間での履修科目数の偏りを改善するためにカリキュラムを改訂した。②ディプロマ・ポリシーと専門科目との関係の整理に着手した。③昨年度作成した「実習スタンダード」を運用した。 「初年次セミナーⅠ・Ⅱ」では、大学での学びを計画させること、進路について考えさせることの2点を重点化して取り組んだ。 「子ども理解ゼミナール」では、説明・指示・指導・評価する力量を把握するなどの成果を得た。「保育実践研究」では、保育・教育実習の事前事後指導として実施し、フィードバックリストを作成した上で各授業担当者が的確に評価した。 「教科授業研究A・B・C」では、教材研究・指導案作成・模擬授業の指導をとおして授業者・保育者としての自覚と授業実践力の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用を含めた教授方法の工夫をより一層充実させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科内での教員間研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html 2017学生便覧
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【管理栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験・実習科目では特に積極的なアクティブ・ラーニングを取り入れ、能動的学習支援等による到達目標型教育を行い、併せて学生による目標管理型学習を行った。 学生の授業評価等を参考にして、教員各自が学力向上対策の自己評価を行い、その情報を全員が共有して今後の教育活動改善の参考にした。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士の国家試験対策が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験対策講座を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度4年次生対象模擬試験及び補習講座の実施状況

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・「大学教育再生加速プログラム」事業においてねらいとする「4×3の比治山力(汎用的能力)」については、本学独自評価指標「比治山力レポート」を用いた評価を行っている。また学生の汎用的能力修得の度合いを客観的に測るためのルーブリックの作成に着手した。</p> <p>・「新規採用者のスキルに関する調査」を企業に実施し、「4×3の比治山力」(汎用的能力)の卒業生の修得状況について就職先の企業にアンケートを実施した。</p> <p>・各学科のディプロマ・ポリシーを具体化・細分化した達成目標を可視化するディプロマ・サブリメントを次年度に試行予定であり、その構築に向けてAPワーキングでサブリメント項目、その他の記載する学生情報の項目の抽出に着手した。</p>	<p>・実施しているアンケート調査の点検・評価方法をポリシーを踏まえた内容にすることが課題である。</p>	<p>・ポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法に、改善する。</p>	<p>・「4×3の比治山力」ルーブリック (APワーキング)</p> <p>・ディプロマ・サブリメント (APワーキング)</p> <p>・リフレクションシート</p>
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・昨年度の「卒業生対象アンケート調査」「共通教育に関するアンケート調査」は、集計結果を印刷物にまとめて教職員に配付し、学修における成果と課題を関係部局で検討し、本年度の学修指導や授業環境の改善に役立てた。</p> <p>・「授業改善学生モニター」との意見交換会の学生の意見を具体的な業務改善に生かすため、本年度は「共通教育の授業アンケート」の結果と関連づけ、集約した。その結果を教員研修会で報告する事により、学修指導についての本学の良さと課題を把握する資料とした。</p>	<p>・現在実施している複数のアンケートが形式的になっている状況が一部みられるため、再検討する必要がある。</p>	<p>・現在実施している複数のアンケートが学修の成果を具体的に点検・評価する方法となっているかについて再検討する。</p>	<p>・「平成29年度卒業生対象アンケート調査」結果</p> <p>・「平成29年度共通教育に関するアンケート調査」結果</p> <p>・平成29年度 第1回授業改善学生モニター意見交換会 (平成29年度第1回教員研修会資料)</p> <p>・平成29年度 第2回授業改善学生モニター意見交換会 (平成29年度第2回教員研修会資料)</p>
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・就職先の企業アンケートは実施していないが、平成29年度は参与が、過去3年間の卒業生の定着率及び採用情報のため就職先企業へ訪問をし、情報を収集している。</p> <p>・キャリア参与が情報収集した内容をまとめ、キャリアセンター運営委員会で活動報告を実施した。</p>	<p>・収集した卒業生情報は実態がつかみにくく、十分ではない。</p> <p>・キャリア形成科目だけでは、就職選択に対する意識改革は不十分で、ディプロマ・ポリシーに沿った支援を検討したい。</p>	<p>・相談体制(専任職員及び相談方法)を充実させ、学科のキャリア運営委員やチューターと連携を取り、学生の就職支援を継続する。</p> <p>・大学2年生全員に対しビジネスマナーを習得する目的のため、「キャリアデザイン」の授業内で、ビジネスマナー講座を実施する。</p> <p>・キャリアセンター運営委員会にて、各学科のキャリア支援の取組状況を報告し全学科で共有する。</p>	<p>・企業訪問報告書</p> <p>・比治山大学キャリアセンター規程</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・専門教育・共通教育の中の全コア・アクティブ・ラーニング科目について、授業担当者に対してリフレクションシートによる自己点検評価を行っている。</p> <p>・「大学教育再生加速プログラム」事業においてねらいとする「4×3の比治山力」(汎用的能力)については、平成28年度より引き続き本学独自の評価指標である「比治山力レポート」を用いた評価を行っている。</p>	<p>・「リフレクションシート」「比治山力レポート」によるアンケートを行っているが、結果のフィードバック方法が課題である。</p>	<p>・APワーキングの中で検討・分析し、結果を授業担当者へフィードバックする。</p>	<p>・リフレクションシート(学生支援室)</p> <p>・比治山力レポート(学生支援室)</p>
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・「学生による授業に関するアンケート調査」は前期・後期ともに全科目について実施済みあり、来年度の授業内容・方法及び学修指導の改善に生かしている。</p> <p>・「授業改善学生モニター」との意見交換会の学生の意見を具体的な業務改善に生かすため、本年度は「学生による授業に関するアンケート調査」の結果と関連づけ、集約した。その結果を教員研修会で報告する事により、本学の学修指導についての本学の良さと課題を把握する資料とした。</p>	<p>・学生による授業に関するアンケート調査については、形式的になっているのみがみられるため、授業内容・方法及び学修指導のより具体的な点検・評価となるよう見直しが必要である。</p>	<p>・実施中のアンケートについて来年度に向けて見直しを進めている。</p>	<p>・平成29年前期学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・平成29年度共通教育に関するアンケート調査結果</p> <p>・平成29年度 第1回授業改善学生モニター意見交換会(平成29年度第1回教員研修会資料)</p> <p>・平成29年後期学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・平成29年度 第2回授業改善学生モニター意見交換会(平成29年度第2回教員研修会資料)</p>
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・就職先の企業アンケートは実施していないが、平成29年度は参与が、過去3年間の卒業生の定着率及び採用情報のため就職先企業へ訪問をし、情報を収集している。</p> <p>・キャリア参与が情報収集した内容をまとめ、キャリアセンター運営委員会で活動報告を実施した。</p>	<p>・卒業生対象アンケート調査結果の満足度の向上させることが課題である。</p>	<p>・相談体制(専任職員及び相談方法)を充実させ、学科のキャリア運営委員やチューターと連携を取り、学生の就職支援を継続する。</p> <p>・大学2年生全員に対しビジネスマナーを習得する目的のため、「キャリアデザイン」の授業内で、ビジネスマナー講座を実施する。</p> <p>・卒業生対象アンケート調査結果の内容を運営委員会で意見交換し、効果的な支援体制について検討する。</p> <p>・キャリアセンター運営委員会にて、各学科のキャリア支援の取組状況を報告し全学科で共有する。</p>	<p>・企業等訪問活動の総括について(報告)</p> <p>・卒業生対象アンケート調査結果</p> <p>・比治山大学キャリアセンター規程</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-1 教学マネジメントの機能性	<p><視点> 4-1-②権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築</p> <p>(留意点) □大学の意思決定の権限と責任が明確になっているか。 □使命・目的の達成のため、教学マネジメントを構築しているか。 □大学の意思決定及び教学マネジメントが大学の使命・目的に沿って、適切に行われているか。</p>	<p>・教授会は毎月1回開催した。 ・全学教授会は6月15日及び3月23日に開催した。(議題は名誉教授称号の授与について) ・大学教育研究協議会は開催していない。 ・学長の交代に伴い、学長及び副学長の所掌事務を一部変更した(4月)。</p>	なし	<p>・平成30年2月9日の理事会において関係規程を改廃し、大学教育研究協議会を廃止するとともに、運営戦略本部会議の構成員から各学科主任を外し、学部長、短大部長を各組織の教学運営の中心と位置付けて、機能的、効率的なガバナンス構築につなげた。</p>	<p>・比治山大学学則 ・比治山大学教授会規程 ・比治山大学全学教授会規程 ・比治山大学運営戦略本部規程</p>
	<p><視点> 4-1-③職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性</p> <p>(留意点) □教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確化にしているか。</p>	<p>・平成29年3月31日に大学設置基準が改正され、事務職員の資質向上による教職協働の推進が規定されたことから、7月28日の理事会において学校法人比治山学園事務等組織規程を改正し、課(室)長、課(室)長補佐の職務中「事務を処理する」を「事務を遂行する」に変更した。 ・平成29年度は大学改革推進会議を2回開催した。 ①11月24日: 学園創立80周年記念事業の実施、牛田キャンパス施設設備整備計画について ②2月9日: 学納金の改定、短期大学部将来構想に係る調査結果の報告について</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為 ・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程 ・学校法人比治山学園事務等組織規程 ・学校法人比治山学園法人事務局処務規程 ・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程 ・比治山大学学則 ・比治山大学文書事務取扱規程 ・比治山大学決裁規程</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-2. 教員の配置・職能開発等	<p><視点> 4-2-①教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置</p> <p>(留意点) □大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置しているか。 □教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。</p>	<p>【現代文化学部・現代文化研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置している。 ・教員の採用・昇任については、教員選考細則を制定し、これまで以上に明確な基準に基づいた採用・昇任の選考を行う。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学教員選考規程(大学) ・比治山大学人事教授会規程(大学) ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公開>公表する教育情報>教員組織図 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/3kyouin_aigaku.pdf 比治山大学教員選考細則(大学) ・教員人事に関する方針
	<p><視点> 4-2-①教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置</p> <p>(留意点) □大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置しているか。 □教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。</p>	<p>【健康栄養学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設時の教員の配置計画に従って、適切に教員の配置を行っている。 ・教員の採用・昇任については、教員選考細則を制定し、これまで以上に明確な基準に基づいた採用・昇任の選考を行う。 ・教員組織の中長期編成計画に基づき、教員の採用を行った。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学教員選考規程(大学) ・比治山大学人事教授会規程(大学) ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公開>公表する教育情報>教員組織図 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/3kyouin_aigaku.pdf 比治山大学教員選考細則(大学) ・教員人事に関する方針
	<p><視点> 4-2-②FD(Faculty Development)をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □FD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29(2017)年度における教員研修会の取り組みについては、全学的な教育課題を踏まえての研修を外部講師・学内担当者により実施した。 ・9月は「授業改善学生モニター意見交換会(第1回)報告」「大規模災害時における安否確認システムについて」「教職課程再課程認定等の説明」「『4×3の比治山力』ルーブリックについて」「今後の私立大学のあり方について～ステークホルダーは『学生』～」を実施した。 ・3月は「人権研修:学生相談の状況について」「授業改善学生モニター意見交換会(第2回)」「学科別研修:授業改善の方向性と具体策等」「AP(大学教育再生加速プログラム)報告」「APセミナー:ルーブリックの効果的な活用法」「大学の卒業生に求められる社会人力」「大学入試改革にどう取り組むべきか」を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度(2017)年度に実施した2回の教員研修会の成果と課題をまとめ、次年度の年間計画を構想する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度(2017)年度に実施した2回の教員研修会の成果と課題をまとめ、次年度の研修会の時期・回数、内容について検討を開始している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成29年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項 ・「平成29年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料 ・「平成29年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項 ・「平成29年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-3 職員の研修	<p><視点> 4-3-①SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み</p> <p>(留意点) □職員の資質・能力向上のための研修などの組織的な実施とその見直しを行っているか。</p>	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部スタッフデベロップメント基本方針に基づき、2日間の職員研修(教員との合同研修含む)、学内教員による「比治山大学におけるグローバル化対応:現状分析と今後必要とされること」をテーマとした講演を行った。</p> <p>・外部機関による研修プログラムの利用を企画し、平成30年3月までに35講座に延べ42名が参加した。</p> <p>・本学の職務に関連する課題について、勤務時間外に行う研修費等の補助を行う、「自己啓発研修費の補助制度」に、平成29年度は、1件の申請があり、1件が採択された。</p>	<p>・外部研修への職員派遣については、現在、所属部署の要請や職員からの自主的の希望に基づき実施しており、本来研修が必要な者が必要な研修を受講する体制となっていない。</p> <p>・成果発表や報告を行う機会がないことが課題である。</p> <p>・自己啓発研修費の補助については、利用者が少ない。</p> <p>・業務が忙しく、遠方での外部研修へ参加できない者がいる。</p>	<p>・職員研修制度運営委員等の受講者指名による派遣が行えるよう検討する。</p> <p>・研修成果の定着や効果の最大化のため、研修前後の仕組みづくりの検討を進める。</p> <p>・自己啓発研修費の補助については、規程の改正及び目標面接等で管理者による利用促進を検討する。</p> <p>・移動時間が不要で、受講日時も受講者が自由に設定できるweb環境を利用した研修の導入を検討する。</p>	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部スタッフデベロップメント基本方針</p> <p>・比治山大学事務職員研修要項</p> <p>・比治山大学事務職員の自己啓発研修費補助に関する内規</p> <p>・平成29年度 比治山大学職員研修実施要領</p> <p>・平成29年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会(教職員合同研修)</p> <p>・平成29年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会(教職員合同研修)</p> <p>・グローバル化対応のためのSD「比治山大学におけるグローバル化対応:現状分析と今後必要とされること」資料</p> <p>・メイツ中国2017年度「定額制研修プログラム」参加者リスト</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 4-4 研究支援	<視点> 4-4-①研究環境の整備と適切な運営・管理 (留意点) <input type="checkbox"/> 快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか。	・専任教員の研究室は、個人ごとに確保されている。	なし	なし	・比治山手帳 教員一覧表	
	<視点> 4-4-②研究倫理の確立と厳正な運用 (留意点) <input type="checkbox"/> 研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか。	・平成28年度に「研究倫理委員会規程」を改正し、それに基づく研究倫理審査を行っている。	なし	なし	・研究倫理指針 ・研究倫理委員会規程	
	<視点> 4-4-③研究活動への資源の配分 (留意点) <input type="checkbox"/> 研究活動への資源配分に関する規則を整備し、設備などの物的支援とRA(Research Assistant)などの人的支援を行っているか。 <input type="checkbox"/> 研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか。	・個人研究費規程の改正を行い、より研究意欲のある教員に「研究奨励費」として研究費の配分を高めた。 ・平成29年度「比治山大学研究助成」は大学8件の申請を採択とし、研究が進められている。また平成30年度は12月に審査を行い、それぞれの助成額を減額はしたもの、大学8件の申請を全て採択とした。 ・平成29年度の科研費は11件の申請を行い、2件が採択された。 ・平成30年度は大学14件の申請を11月に行った。	・外部資金補助金申請など、研究活動の活性化をさらに推進することが課題である。	・平成30年度から外部資金補助金申請者・採用者等への研究奨励費を増額するため、比治山大学教員個人研究費規程の改正した。	・教員個人研究費規程 ・研究助成規程 ・研究助成取扱要領 ・教員選考細則	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-1 経営の規律 と誠実性	<p><視点> 5-1-②使命・目的の実現への継続的努力</p> <p>(留意点) □使命・目的を実現するために継続的な努力をしているか。</p>	<p>・学校法人比治山学園寄附行為に掲げている目的に沿って策定した比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度までの6年間)に沿って平成29年度の事業計画を実施している。</p> <p>・実施に当たり、各年度定例に報告(年2回)を受け、進行状況を把握し、必要な修正を加えるとともに全体的な見直しを行っている。</p> <p>・事業計画と併せて予算についても中間報告を受け、執行状況を把握している。</p> <p>・補助金等外部資金獲得への取り組み、経費削減への取り組みなどの対応や予算の執行状況についても報告を徴取し、実施状況を確認している。</p> <p>・理事会・評議員会、経営戦略会議、大学改革推進会議、運営戦略本部会議、教授会等の主要会議は議事録を作成し、審議経緯と結果を適切に管理している。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度まで)</p> <p>・平成29年度事業計画の進捗状況(平成30年1月末現在)</p> <p>・主要会議議事録</p>
【基準項目】 5-2 理事会の機能	<p><視点> 5-2-①使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性</p> <p>(留意点) □使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制を整備し、適切に機能しているか。 □理事の選任及び事業計画の確実な執行など理事会の運営は適切に行われているか。 □理事の出席状況及び欠席時の委任状は適切か。</p>	<p>・「経営戦略会議」や「大学改革推進会議」を設置し、理事会において学園及び各設置校の重要事項について機動的・戦略的に意思決定ができる体制を構築している。</p> <p>・理事会機能の活性化を図るため理事研修会を継続して行っている。平成29年度は外部講師により2回実施した。</p> <p>・理事・評議員に配付している「理事・評議員必携」について、学校関係事項の新しい動き等の説明や教育及び会計用語集に用語を付け加える等内容の充実を図り、資料編についても平成29年度の内容に更新し配付した。</p> <p>・理事会は法令及び寄附行為に基づき適切に運営されている。平成29(2017)年度は、臨時を含め8回開催し、理事の出席状況は実出席率98.5%と適切である。</p> <p>・理事の欠席時に意思表示を行う書面に、議案に対する賛否の意思表示のための意見欄を設けている。更には、理事会開催前には専務理事が外部理事に議案の説明をしており、円滑な意思決定ができています。</p> <p>・理事は、寄附行為に基づき適切に選任されている。</p> <p>・事業計画について、年2回進捗状況を確認し、必要な修正を加えている。</p> <p>・理事会は、理事長等に事務委任したもの以外の学校法人の業務を決定するとともに、学長や校長から事業の進捗状況について報告を求め、引き続き状況をチェックし、意見を述べる等、理事の職務の執行も監督している。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程</p> <p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度まで)</p> <p>・平成29年度事業計画の進捗状況(平成30年1月末現在)</p> <p>・経費削減への取組の状況報告(H29.5.26理事会・評議員会報告資料)</p> <p>・理事研修会開催状況</p> <p>・学校法人比治山学園理事会議事録</p> <p>・平成29年度理事会・評議員会の開催状況</p> <p>・理事会等出欠はがき</p> <p>・理事・評議員必携</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-3 管理運営の 円滑化と相互 チェック	<p><視点> 5-3-①法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化</p> <p>(留意点) □意思決定において、法人及び大学の各管理運営機関の意思疎通と連携を適切に行っているか。 □理事長がリーダーシップを発揮できる内部統制環境を整備しているか。</p>	<p>・「経営戦略会議」を概ね毎月1回開催し、経営や教学に関する重要事項について協議している。</p> <p>・「経営戦略会議」の中に、「大学改革推進会議」を設置し、非常勤理事も加え、重要事項について各部門が連携して協議する体制となっている。</p> <p>・大学事務局長は法人事務局長の次長を兼務し、専務理事兼法人事務局長は、大学の各部門の事務責任者で構成する室長会議に参画する等、実務レベルでの意思疎通と連携を図っている。</p> <p>・理事会で審議される事項は、事前に必ず「経営戦略会議」において検討・協議され、議案の調整・決定を行っている。「経営戦略会議」には各設置校の役職者が出席し相互チェックと連携が働いている。</p> <p>・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程を定め、理事長に権限を委任するとともに、学校法人比治山学園法人事務局処務規程により理事長決裁を明確にし、理事長に権限を集中的に付与している。</p> <p>・理事長がリーダーシップを発揮できるよう、学園内外の情報は日頃から報告・説明を行っている。</p>	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人比治山学園寄附行為 ・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程 ・平成29年度理事会・評議員会開催状況 ・比治山学園事務組織規程 ・比治山学園組織図 ・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程 ・学校法人比治山学園法人事務局処務規程 ・比治山大学文書事務取扱規程
	<p><視点> 5-3-②法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性</p> <p>(留意点) □法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能しているか。 □監事の選任は適切に行われているか。 □監事は、理事会及び評議員会などへの出席状況は適切か。 □監事は、理事会及び評議員会などへ出席し、学校法人の業務又は財産の状況について意見を述べているか。 □評議員の選任及び評議員会の運営は適切に行われているか。 □評議員の評議員会への出席状況は適切か。 □教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか。</p>	<p>・法人と大学の業務処理は、起案決裁により業務執行の手続きを行っている。特に重要な案件は相互に合議され、相互に動向を把握し、チェックしている。最終の意思決定を行うまでに複数の協議体で議論、検討がなされているため相互機能のチェック体制は整備されている。</p> <p>・監事は、寄附行為に基づき、適切に選任している。</p> <p>・監事は、理事会及び評議員会に毎回出席し、法人の業務や財産の状況を把握し、必要に応じて意見を述べている。平成29年度の理事会及び評議員会への実出席率は、理事会68.8%、評議員会87.5%と良好である。</p> <p>・評議員会は、25人の評議員(定数20~25)で構成し、理事定数7~9人の2倍を上回っている。</p> <p>・評議員は寄附行為に基づき適切に選任している。</p> <p>・評議員会は、理事会の諮問機関として、適切に運営している。平成29(2017)年度は、臨時評議員会を含め4回開催し、寄附行為に定められた事項はもとより、学園の業務に関する重要な事項についてあらかじめ意見を聞いている。また、その都度学園の状況について報告をしている。</p> <p>・平成29(2017)年の評議員会への評議員の実出席率は70.4%である。</p> <p>・教職員の提案をくみ上げる仕組みとしては「事務職員提案実施要綱」を制定している。その他、意思形成を行うまでの各種会議に構成員として参画している。</p>	<p>・評議員の恒常的欠席者がいること。</p>	<p>・欠席者が出席できない理由について聞き取りする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人比治山学園寄附行為 ・平成29年度理事会・評議員会開催状況 ・学校法人比治山学園理事会議事録 ・学校法人比治山学園評議員会議事録

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 5-4 財務基盤と 収支	<p><視点> 5-4-①中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>中長期的な計画に基づく財務運営を行っているか。</p>	<p>・平成28年10月26日の理事会で承認された「中期財政計画の見直し」を、28年度決算数値及び29年度学納金収入予測と私学事業団からの借入金収入を反映して再度見直しを行い、平成29年10月18日の理事会で承認された。この再度見直しされた中長期計画に基づき現在財務運営が行われている。</p>	<p>・経常費補助金のうち経営強化集中支援事業については選定基準61点以上に対して得点56点で採択されなかった。</p>	<p>・設問内容と要件を再度検証して、今年度の56点から改善できる項目があるかどうか検証する。</p>	<p>29年度決算書類 ・資金収支計算書 ・事業活動収支計算書 ・貸借対照表</p>	
【基準項目】 5-5 会計	<p><視点> 5-5-①会計処理の適正な実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>学校法人会計基準や経理に関する規則などに基づく会計処理を適正に実施しているか。 <input type="checkbox"/>予算と著しく乖離がある決算額の科目について、補正予算を編成しているか。</p>	<p>・学校法人会計基準・比治山学園経理規程に則して会計処理を行っている。また実務的に対応できない財務案件については適宜私学事業団・公認会計士にアドバイスを仰いでいる。 ・補正予算については第4回目の補正予算案を3月26日の理事会に提出し承認された。</p>	<p>・建物工事等の支出については予算策定時点では修繕費・設備関係支出(建物支出)等の分けが明確にできないことがある。支出全体では予算内にコントロールできているが、決算時に費用科目毎での差異が生ずることがある。</p>	<p>・予算と著しく乖離した時点の直近の理事会で、補正予算の編成を行う。 ・資金収支予算書の予算執行状況について中間チェックを行い、毎年10月の理事会で報告を行う。</p>	<p>29年度補正予算書類 ・資金収支計算書 ・事業活動収支計算書</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 6-1 内部質保証 の組織体制	<視点> 6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立 (留意点) <input type="checkbox"/> 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 内部質保証のための責任体制が明確になっているか。	・内部質保証のための責任体制として、学長を本部長とする「運営戦略本部」を設置している。 ・内部質保証の恒常的な組織体制として、「運営戦略本部」の下に評価委員会を置き、大学評価を指揮・管理し、日本高等教育評価機構の評価基準を参考にして、報告書案を作成するとともに、学生による授業評価、教職員研修等を行っている。 ・評価委員会には「大学部会(大学院含む)」「短大部会」「事務部会(法人事務局含む)」を置き、自己点検・評価を行い、年度ごとに自己点検評価書を作成し、執行部会、運営戦略本部、教授会に報告し、ホームページ等で公表している。	・内部質保証の体制については、自己点検・評価の結果を改革・改善に確実に繋げることが課題である。	・内部質保証を恒常的に維持するために、そのPDCAサイクルを必要かつ十分に機能させる組織体制を構築する。	・比治山大学点検・評価規程
	<視点> 6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立 (留意点) <input type="checkbox"/> 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 内部質保証のための責任体制が明確になっているか。	・平成26年の学校教育法の改正を受けて学長のリーダーシップによるガバナンスを強化するため学内諸規程の改正を行い、学長補佐体制(副学長、図書館長、学長補佐)の主な所掌や関連組織・業務等を明確化し周知することで関連の委員会等との連携が強化され、大学の使命、目的及び学修者の要求に対応できるように体制を整えている。 ・学長を本部長とする運営戦略本部会議では、副学長、図書館長、学長補佐、学部長、短大部長、各学科主任が構成員となり、大学、大学院及び短期大学部の中長期的ビジョンの策定や緊急課題に対する諸施策の企画立案及び調整を行っている。	なし	・平成30年2月9日の理事会において関係規程の改廃を行い、大学教育研究協議会を廃止するとともに、運営戦略本部会議の構成員から学科主任を外し、学部長、短大部長の学部、短大における教学運営の責任者としての立場を明確化することにより、効率的なガバナンス体制の構築につなげた。	・比治山大学学則 ・平成29年度比治山大学・比治山大学短期大学部の学長補佐体制について ・比治山大学・比治山大学短期大学部学長補佐選考内規 ・比治山大学運営戦略本部規程
【基準項目】 6-2 内部質保証 のための自己点検・評価	<視点> 6-2-①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有 (留意点) <input type="checkbox"/> 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか。 <input type="checkbox"/> エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的実施しているか。	・本学の課題や将来構想を見据え、本年度より日本高等評価機構の新しい基準による自己点検・評価を実施した。また、「現状」「進捗度」「課題」「改善方策」とともに「根拠資料」を明記することとし、より正確な評価となるようにした。 ・PDCAサイクルの確実な実施を目指して、本学の中期計画・年度計画を大学独自の基準に位置づけることとした。また、年度途中での改善や予算申請にも生かすことができるように、平成30年度は中間評価を10月に実施し、11月以降にはその改善にも着手できるように時期の変更を決定した。 ・新基準による平成29年度自己点検評価書(期末報告)に向けて、中間報告のとりまとめ結果を踏まえ共通確認事項等を再度周知した。	・中間評価結果及び今年度末の評価結果をとりまとめた結果に基づいて新基準によるエビデンスに基づいた自己点検評価の実施状況を確認する必要がある。	・中間評価結果及び今年度末の評価結果に基づいて、新基準によるエビデンスに基づいた自己点検評価について再度共通確認の必要な事項等を取りまとめ、全教職員に周知する。	・大学 平成29年度自己点検評価書(中間報告)作成依頼に関する資料 ①平成29年度自己点検評価書(大学)について ②自己点検評価書の基本スケジュールとPDCAサイクルについて ③平成29年度自己点検評価書中間報告・最終報告 様式 ④平成29年度自己点検評価書の評価項目について(新基準・旧基準の説明)
	<視点> 6-2-②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析 (留意点) <input type="checkbox"/> 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか。	・①インスティテューショナル・リサーチ委員会(IR委員会)で、入試・教学・キャリア等の分析結果を報告した。昨年度の東北文化学園大学との相互評価を受け課題となっていた、ファクトブック(年次報告書)の作成は完成し、継続して作成していく。また、政策提言を行うための分析モデルの構築についての課題は、退学者予測モデルを作成し報告を行った。学長へも退学者予測モデルについて3月に報告を行った。これまでの学生・学修支援型のIRに加えて経営面からのIRへの取り組みも進めている。 ・②職員能力向上のための活動として、分析ソフトの研修や、IR勉強会に参加した。また、IR座談会を月2回程度開催し、分析レポートの意見交換を行った。 ・③成果の公表として「比治山大学紀要」に「比治山大学・比治山大学短期大学部におけるインスティテューショナル・リサーチの現状と課題」を投稿した。	・①情報収集データの継続的クレンジング②分析例を増やしモデルを構築③分析結果に基づく政策提言を行う④分析結果を蓄積するため指標開発⑤全学的に行われている調査・アンケートの見直しが課題である。	・データの細部の確認、データ作成のルール化、分析結果の執行部への報告、AP事業との連携、外部データの活用、全学的に行われている調査・アンケートの見直し・合理化を行う。	・比治山大学インスティテューショナル・リサーチ委員会規程 ・研修会報告書 ・IR委員会議事録 ・比治山大学紀要第 24号

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 6-3. 内部質保証の機能性	<p><視点> 6-3-①内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性</p> <p>(留意点) □ 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。 □ 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果の活用により、中長期的な計画を踏まえた大学運営の改善・向上を図るなど、内部質保証の仕組みが機能しているか。</p>	<p>・平成29(2017)年度は大学全体のディプロマ・ポリシーに基づいて各学科・コースのディプロマ・ポリシーの見直しを行った。その際、学科・コースごとに所属学生のディプロマ・ポリシーの達成状況を指標化し把握することで教育効果を測定できるようにして、その達成指標としてディプロマ・ポリシーに関連する検定や外部試験等を活用することを検討した。</p> <p>・日本高等教育評価機構の新評価基準に基づく自己点検評価については、評価委員会が学部・学科、センター、委員会等の組織体による自己点検・評価を集約し、中間評価を行い、年度ごとに自己点検評価書まとめ、執行部会、運営戦略本部、教授会等に報告するとともに、ホームページ等で公表している。</p> <p>・中期計画の自己点検・評価については、9月と翌年1月に、部局単位で中間評価を行い、その結果を「主要事業計画進捗状況」として集約して執行部会、運営戦略本部、教授会、経営戦略会、理事会等に報告している。また、その報告内容は次年度の予算編成のための資料としている。</p> <p>・平成29(2017)年度は、教育、研究、社会貢献に対する質保証や大学運営の改善・向上を図るため、学長の指示のもとで教員の昇任・選考基準の制定を行った。</p> <p>・以上のように、本学では、内部質保証を維持する機能を整えている。</p>	<p>・ディプロマ・ポリシーの達成状況の指標を作ることが課題である。</p> <p>・内部質保証については、認証評価の新しい基準を周知し、PDCAサイクルを作ることが課題である。</p> <p>・カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーを起点とした内部質保証については早急に着手する必要がある。</p>	<p>・ディプロマ・ポリシーの達成状況の指標を把握し、認証評価の新基準を理解する。</p> <p>・内部質保証を恒常的に維持するために、予算と評価を連携するPDCAサイクルの仕組みを構築する。</p> <p>・カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーを起点とした内部質保証についてもその質保証システムを構築する。</p>	<p>・各学科におけるディプロマ・ポリシーの達成のための計画策定について(運営戦略本部会議H29.06.23)</p> <p>・平成29年度 主要事業計画進捗状況</p> <p>・比治山大学教員選考細則(大学の制定案について(運営戦略本部会議H29.10.10))</p> <p>・比治山大学教員選考細則(大学の制定案について(各学部教授会H29.10.19))</p>
	<p><視点> 6-3-①内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性</p> <p>(留意点) □ 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。 □ 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果の活用により、中長期的な計画を踏まえた大学運営の改善・向上を図るなど、内部質保証の仕組みが機能しているか。</p>	<p>・大学は、平成27年9月に理事会で承認された「比治山学園中期計画」(平成28年度～平成33年度)にそれぞれのミッション、5つの個別ビジョン(教育改革、研究活性化、地域貢献、国際化、基盤整備)及び22の重点事業を定め、同時に承認された年次計画に沿って実施している。</p> <p>・毎年度の重点事業の実施結果は翌年5月の理事会・評議員会において報告するとともに、9月末と1月末現在の進捗状況についても直近の理事会・評議員会で報告している。</p> <p>・平成30年度予算編成から、中期計画の前年度実施結果及び当該年度の進捗状況を検証し申請内容に反映させることとしている。</p> <p>・監事が年2回行う業務監査(5月、10月)においても上記の実施結果や進捗状況について説明し、質疑の結果を事業実施に反映している。なお、平成28年度以前の業務監査(5月)においては、大学の直近の自己点検評価書を監査資料として提出し、質疑を受けていた。</p>	<p>・自己点検評価結果が中期計画の進行管理により反映できる仕組みづくりが課題である。</p>	<p>・自己点検評価結果が中期計画の進行管理により反映できる仕組みを検討する。</p>	<p>・比治山学園中期計画(大学・短期大学部)</p> <p>・平成28年度事業報告書(大学・短期大学部)(理事会資料)</p> <p>・平成30年度予算編成方針(大学・短期大学部及び幼稚園)</p> <p>・平成28年度決算に係る業務監査について(通知)(平成29年4月14日)</p> <p>・平成27年度決算に係る業務監査について(通知)(平成28年4月12日)</p> <p>・平成29年度監査計画</p>

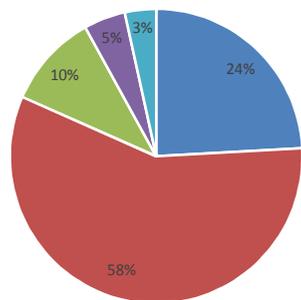
独自基準 比治山大学・比治山大学短期大学部 中期計画(平成28年度から平成33年度)に基づく平成29年度事業計画進捗状況について

中期計画(平成28年度から平成33年度)を策定するにあたり、本学の「建学の精神」をあらためて振り返り「ミッション」を再定義し、6年先までにありたい姿としての「ビジョン」を明確にした。ビジョンは大学、短大全体ビジョンと個別の5ビジョンを設定し、ビジョン実現のために22の主要事業と、これに紐づく具体的な重点施策である「重点計画」で構成している。各年度の事業計画は、基本的にこの「重点計画」を実施するものである。

平成29年度事業計画の進捗状況についてビジョンごとに以下のとおり点検した。

主 要 事 業	各事業の進捗度 (H30.1現在)				
	A	B	C	D	-
1 教育改革ビジョン					
(教学)					
1 大学教育再生加速プログラムの継続			4		
2 学生満足度向上	1	1	1		
3 高一大一社会の接続事業		2	1		
4 「4×3の比治山力」を支えるための基礎を構築		1			
5 外国語関係科目の授業者に対してアクティブ・ラーニングの授業形態等の研修	1				
6 大学を取り巻く様々な課題への取り組みと卓越した教育の推進		2		1	
(キャリアガイダンス・支援)					
7 学生の主体的キャリアビジョン育成システム		7	1		
(学生支援)					
8 主体的な学びの意欲と強靱な心身の育成		2			
9 「Me+Library」を含む図書館の充実	3	1			
(入試広報)					
10 広島県内外のみならず世界から、優秀で志の高い入学生の確保		4			
教育改革ビジョン計	5	24	3	1	0
2 研究活性化ビジョン					
11 各教員個々の教育研究力向上と研究成果レベル向上、研究活動成果発信の体制整備及び研究推進支援の充実		2			
3 地域貢献ビジョン					
12 大学諸活動の「見える化」推進による地域のニーズへの対応と学科の特性に応じ学生参加型地域貢献・連携活動の推進		4			
4 国際化ビジョン					
13 国際化5戦略(①海外留学促進②留学生受入促進③教職員国際化支援④地域グローバル化対応⑤グローバル人材養成)と国際交流センターの整備	10	8	3	1	
14 海外研修プログラムの体系的整備		4	2		
国際化ビジョン計	10	12	5	1	0
5 基盤整備ビジョン					
(大学教育の質保証)					
15 事務組織体制の構築と人事考課制度の実効性確保				1	2
16 コンプライアンス、PDCAの実効性強化及びIR委員会機能の充実と確立	1	1			1
17 収入定員確保のための教育組織の見直し			1	1	
(施設整備・環境整備計画)					
18 教育内容等に対応した施設整備、学生視点を重視したキャンパスや利便性の向上、学生生活を支えるための施設整備の充実	1	1			
19 情報通信技術を活かした教育環境の整備、情報セキュリティ確保、機器更新、情報センター組織の確立	2	2			
(情報公開とアカウントポリシー)					
20 大学情報公開の活性化と広報戦略の確立	1	1			
(財政基盤の安定と機動的意決定)					
21 学納金収入確保と外部資金の積極的導入による大学経営基盤の安定		1			
22 経営ガバナンスにおける大学、短期大学のマネジメント体制の確立と業務執行管理体制の強化と機動的意決定のための運営体制の構築	1				
基盤整備ビジョン計	6	6	1	2	3
6 その他(新たに取り組んだ事業)					
1 公認心理師養成課程の開設準備		1			
2 教職課程再課程認定申請関連		1			
総計	21	50	9	4	3

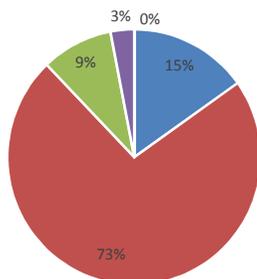
事業計画全体進捗状況



■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

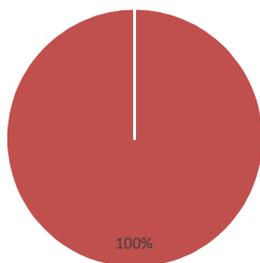
事業計画全体としては、A評価24%、B評価58%であり、80%以上の事業が完了または予定通りの進捗となっている。遅れている事業としてC評価10%、未着手D評価5%があり、全体で15%の事業が遅れている。国際化ビジョンにおいて事業進捗に課題があり、基盤整備ビジョンについては事業項目変更のシェアが大きい。これらについては、個別の事業計画の見直しや進捗管理を適正に行うこととしたい。引き続き中期計画の後期に入り、目標達成のために平成30年度事業計画から取り組みを始める。なお、中期計画については、平成30年度、中間見直しを実施する予定である。

教育改革ビジョン



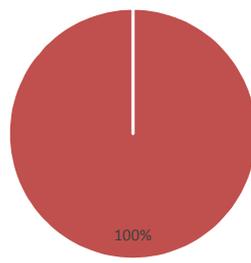
■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

研究活性化ビジョン



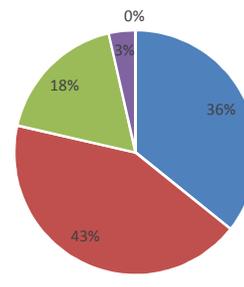
■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

地域貢献ビジョン



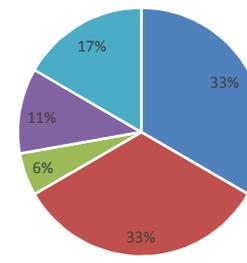
■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

国際化ビジョン



■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

基盤整備ビジョン



■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

平成 29 年度 自己点検評価書

発行日 平成 30 年 7 月

編集・発行 比治山大学

広島市東区牛田新町四丁目 1 - 1

電話 : 082 - 229 - 0121

FAX : 082 - 229 - 5100